令和5年 第8回

教育委員会定例会会議録

とき 令和5年6月27日

品川区教育委員会

令和5年第8回教育委員会定例会

日 時 令和5年6月27日(火) 開会：午後2時6分
閉会：午後4時40分

場 所 教育委員室

出席委員 教 育 長 伊崎 みゆき
教育長職務代理者 富尾 則子
委 員 海沼 マリ子
委 員 塚田 成四郎
委 員 吉村 潔

出席理事者 教 育 次 長 米田 博
庶 務 課 長 宮尾 裕介
学 務 課 長 柏木 通
指 導 課 長 中谷 愛
教育総合支援センター長 丸谷 大輔
特別支援教育担当課長 唐澤 好彦
品川図書館長 吉田 義信
学校施設担当課長 森 雄治
統括指導主事 升屋 友和
統括指導主事 齊藤 隆光

事務局職員 庶 務 係 長 菅野 祐輝
書 記 藤沼 真也子
書 記 田島 希望

傍聴人数 17名

そ の 他 品川区教育委員会会議規則第14条の規定に基づき、会議の一部を非公開とした。

次第

- 協議事項 1 令和6年度品川区立学校使用教科用図書の仮採択について（小学校・義務教育学校（前期課程）保健・音楽・図工・家庭）
- 協議事項 2 自閉症・情緒障害特別支援学級の新設について
- 陳情審査 包括的性教育を中心にすえ「生命の安全教育」を実りあるものにするための陳情書
- 報告事項 1 新入学者の受け入れ枠について
- 報告事項 2 「品川区学事制度審議会」の設置について
- 報告事項 3 教職員の任免等について（休職）
- 報告事項 4 令和5年度 品川区立図書館の休館について
- 報告事項 5 子ども向け図書館夏のイベントのご案内
- その他 令和5年8月行事予定について

【教育長】 ただいまから、令和5年第8回教育委員会定例会を開会いたします。

署名委員に、富尾教育長職務代理者、塚田委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

本日は、傍聴の方がおられますのでお知らせいたします。

続いて、会議の持ち方についてですが、日程第3、報告事項3、教職員の任免等について（休職）、本件は人事に関する案件ですので、品川区教育委員会会議規則14条の規定に基づき非公開の会議といたしますが、御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

【教育長】 異議なしと認め、本件については、全ての日程の終了後に審議いたします。

それでは、本日の議題に入ります。日程第1、協議事項1、令和6年度品川区立学校使用教科用図書の仮採択について（小学校・義務教育学校（前期課程）保健・音楽・図工・家庭）、説明に入る前に、本件につきまして、吉村委員は他の業務との関係で審議に参加することができませんので、一旦、御退室いただきます。

（吉村委員退室）

【教育長】 それでは、説明をお願いします。

教育総合支援センター長。

【教育総合支援センター長】 本日は、小学校・義務教育学校前期課程の保健・音楽・図画工作・家庭の4種目について御審議いただきます。各教科の説明につきましては、担当の指導主事より説明をいたします。よろしくお願いいたします。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 体育科の保健の教科書について御説明いたします。

最初に、指導していく上で重視している点についてお話しいたします。学習を進めるに当たって、品川区立学校教育要領では、児童の実態からの課題として、生活習慣の乱れやストレスの増大が健康に影響を与えていることが挙げられています。そのため、発達段階を踏まえて内容の体系化を図ることと、健康、安全に関する基礎的、基本的な内容を実践的に理解できるように指導の在り方を改善することを重視しています。

それでは、資料1-1を御覧ください。令和6年度は、AからFの教科書会社の教科書より採択を行います。表の左側の調査基準に沿って御説明します。

まず、1の内容については、各社、学習の進め方や課題を共有できるような工夫をされています。2の構成と分量について、（1）内容の配列の仕方、単元・教材等の系統性や発展への配慮を御覧ください。各社、QRコードが掲載され、デジタルコンテンツを見ることが出来ます。

また、（2）全体の構成とその見通しに対する配慮を御覧ください。各社、児童が身近な生活における健康、安全に関心を持ち、自ら考えたり判断したりしながら、健康に関する課題を解決する課題解決的な学習を進めていく構成となっております。

（3）各領域の分量に対する配慮では、第5学年で8時間程度行う心の健康とけがの防

止の時間数について、A社、B社は、心の健康、けがの防止ともに4時間、C社、D社、F社は、心の健康3時間、けがの防止5時間、D社は、学校の状況などに応じて、心の健康、けがの防止ともに4時間、または、心の健康3時間、けがの防止5時間で扱えるようになっています。

次に、3、表記と表現について、体の発育、発達の男女の体と体の変化の示し方です。各社、第3、4学年の赤い付箋で貼られているページを開いてください。A社は、男女の体は体育着姿、体の変化は体育着姿の絵、B社は、男女の体は体育着姿の絵、体の変化は裸の絵、C社は、男女の体は体育着姿、体の変化は体育着姿の絵、D社は、男女の体は体育着姿の絵、体の変化はシルエットの絵、E社は、男女の体は水着姿、体の変化は裸の絵、F社は、男女の体はタイツ姿、体の変化は洋服姿の絵を使って示しています。

4、学習活動については、各社、学習のまとめで学習してきたことを基に自分の考えなどを書き込めるようになっていて、深い学びの実現につながるようになっています。

5、造本については、各社、大きな差異はありません。

6、地域性については、A社、C社、D社、E社、F社が、東京都に関する写真を使用しています。緑の付箋が貼ってある第5、6学年のD社とB社は品川区の写真を使用しています。

最後に、総合的に見ると次のような特色があります。各社、第5、6学年の青い付箋が貼られているページを開いてください。A社は、各章の扉には著名人とキャラクターの対話形式のインタビューを取り上げ、保健学習への興味関心を高める工夫をしています。B社は、各時間の終わりには、もう一歩先の自分への時間を設け、今後の自分の取組を伝えられるようにしています。また、児童の理解度に応じて、記述の手助けとなる吹き出しが記載されています。C社は、心の安全を守る発展的な内容として、不安や悩みなどの対処でコミュニケーションに特化したページがつけられています。D社は、考えさせる発問が掲載されており、自分で課題を考えることや解決策を書く欄がございます。E社は、ステップごとに関連したQRコードを掲載し、思考ツールや実習動画など、より保健の学習の学びを深める資料を示しています。F社は、教科書に折り込み部分を設け、導入時や活動を行うときのヒントとして使用できるようにしています。

以上で説明を終わります。

【教育長】 説明が終わりました。御質疑、御意見等お願いいたします。

富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 それぞれQRコードが示されていると思うんですけども、QRコードの内容の検討はいかがだったでしょうか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 QRコード、各社工夫をされていまして、全て網羅はできていないんですが、例えば実験動画、手の汚れの実験の動画であったり、シミュレーション、伸びた身長、1年間でどのぐらい身長が伸びたかというのを数字を入れることでグラフができるようにであったり、あとは、ワークシートで使えるものであったり、保健クイズというものを示して、学習のまとめとして保健のクイズに答えられるようなQRコード、その他、多々いろいろなものを工夫されております。

【富尾教育長職務代理者】 それぞれの教科書によって、特に大きな違いはなかったと

ということでしょうか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 数までは検討委員会では数えてはいないのですが、どの社も工夫をしてQRコードを入れているような形になっています。

【教育長】 よろしいでしょうか。

ほかには。

海沼委員。

【海沼委員】 男女の体の示し方は、体育着だったり、タイツだったりしていますけれども、水着など様々ありますけれども、それは、よさ的にはどうなのかなと思ったんですけど、いかがなんでしょうか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 教科書検討委員会では、まず、体にフィットしているほうが男女の体の違いが分かりやすいという話が出ました。ということで、タイツであったり、水着であったりの方が体の違いというのは分かりやすいという意見が出ました。また、水着であることで、生命の安全教育についてのプライベートゾーンについての指導も併せてできるのではないかなというお話がありました。

【海沼委員】 今のお話ですと、水着、体にフィットしているほうが分かりやすいということですよ。

【指導主事】 はい。

【海沼委員】 ありがとうございます。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。

富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 それぞれ教科書によって書き込みスペースの多い、少ないがあるかなと思ったんですが、これは、多いほうがより学びを深めるにはいいんでしょうか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 教科書検討委員会でも、少なすぎると学習の時間があつという間に過ぎてしまったりという御意見がありまして、あと、ただ、書き過ぎると、保健が苦手なお子さんにとっては、そこに関しての負担が多いのではという御意見はいただきました。

【富尾教育長職務代理者】 分かりました。ほどほどが良いということですね。

【教育長】 そうすると、AからFまであるんですけども、書き込みの分量的にはどうなんでしょうか。どこどこを例えば比較をすると分かりやすいのでしょうか。

【富尾教育長職務代理者】 先ほどのページでもそうですよね。青い付箋のところのものでも比べられるのかなと。

【教育長】 青い付箋ですか。

【富尾教育長職務代理者】 ここはちょっと違うか。

【教育長】 皆さん、見ていただいて差は分かりますか。

富尾教育長職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 私はこれが多いなと思っているのがあったので大丈夫です。

【教育長】 ほかにございますか。

塚田委員はいかがでしょう。

【塚田委員】　たくさんありまして。

【教育長】　確かに。比べるのが大変ですね。

【塚田委員】　いろいろあって、いずれも検定通ったものですのでなかなか難しいんですけど、甲乙つけるのが難しいんですけど、学校の先生が使いやすいという御意見がかなり重要だと思います。そういう感じの委員会がありましたよね。そこの方に従うのがいいのかなという感じがしています。

【教育長】　富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】　ジェンダーについての検討はされていたんでしたでしょうか。

【教育長】　指導主事。

【指導主事】　ジェンダーに関する表記は、各社全て記載されていまして、例えばみんな違ってみんないいというようなところであったり、性の多様性、性と自分らしさ、性についての心の多様性というような、文言は違うのですが、各社、6社全てジェンダー表記はされていました。

【教育長】　多様性について触れているという。

【指導主事】　そうですね。

【教育長】　ここは、6社とも差はなかったと。

【塚田委員】　ジェンダーについてと、正面から論じるといろいろ難しい問題があるので、その辺は、今回の教科書に書いてある程度でよろしいんじゃないですかね。

【教育長】　性の多様性とか、それぞれの多様性についても触れられて、書き方はいろいろでしたけど、一応、触れられてはいるというところですよ。

ほかにはございますか。

海沼委員。

【海沼委員】　もう一つよろしいですか。

健康の面で、薬物とか飲酒とかいろいろありますけれども、タブレットとか、今、スマホの見過ぎや何かがありますよね。今の子供って、結構目が悪くなる率って多いじゃないですか。パソコンやタブレットと健康って、ほんの少ししか書いてないもので、これはまたQRコードとか何かでまた別の場面でちゃんと教えていただけるのかなとか思っただけなんですけれども、その点はいかがですか。

【教育長】　指導主事。

【指導主事】　QRコードの中というのに関しては、検討委員会のほうでは話は出ていなかったのですが、各社、教科書の中で、3年生も4年生もスマートフォン、タブレット等の目の健康についてであったり、あとは、インターネットの犯罪被害というところも踏まえて、特に5、6年生に関しては、依存症であったり犯罪被害というものが含まれている会社が多く感じました。

以上です。

【教育長】　よろしいでしょうか。

ほかにはございますか。

質疑や意見が出終わりましたので、最終的にどの教科書か、御発言をいただきたいと思

います。

富尾職務代理者からよろしいでしょうか。

【富尾教育長職務代理者】 6社ある中で、私はDとEがいいなと思いました。Dがいいなと思ったのは、私、小児科医なので、早寝早起き朝御飯のポスターがバッチリ貼ってあるというところがすごくいいなというふうに思いました。

【教育長】 すみません、Dの何年生のものでしょうか。

【富尾教育長職務代理者】 Dの3、4年生の12ページ、13ページです。そのポスターが分かりやすくって。いいなというふうに思ったのと、書き込みが多くて、この教科書で学習を進めるにしたがって、自分で学ぶことができるんじゃないのかなというところがいいかなというふうに思いました。

なので、DとEでよろしいでしょうか。2つ申し上げます。

【教育長】 ありがとうございます。

塚田委員はいかがでしょう。

【塚田委員】 私は、先生方の評価が良いということでEですかね。

【教育長】 特に御意見はありますか。

【塚田委員】 私は、これがいいというのはあまりないですよ。みんな、よくできている。

【教育長】 みんな、よく見える。みんな、それほど工夫して作っています。ありがとうございます。

海沼委員。

【海沼委員】 いろいろ見まして、どこの教科書もみんないいかなとは思いますが、富尾先生もおっしゃっていたように、やはりE社だと書き込みがその場所のできるというのがいいのかなというのと、見やすいのかなと思いました。また、先生方というか、使う学校側のほうから見ても使いやすいというところがいいのかなと思うんですけれども。

【教育長】 ありがとうございます。

私も意見を述べてよろしいですか。見やすさというところでは、私はあまり色の濃いものよりも、少し目に優しい教科書のほうがいいかなというところが1点と、あと、お二人の委員おっしゃいましたけれども、教科書を見ながら自分で考えたことを書いていけるというところで、私もEがよろしいかなと思います。

そうしますと、今、お話を伺いまして、富尾職務代理者からはDかEという話、あとの皆さんはEというお話でしたので、E社を推す意見が多いので、E社に仮決定をすることといたしますが、御意義ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

【教育長】 それでは、保健はE社に仮決定をいたします。

よろしいでしょうか。

続いて、音楽について説明をお願いします。

指導主事。

【指導主事】 音楽科の教科書について御説明します。

音楽科では、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質、能力を育成することを目指しています。その資質、

能力とは、曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする知識及び技能の修得、音楽表現を工夫することや音楽を味わって聴くことができるようにする思考力、判断力、表現力等の育成、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う、学びに向かう力、人間性等です。これらの3本柱を踏まえ、それぞれの教科書の特色について御説明いたします。

一覧表を御覧ください。音楽の教科書は、A社、B社の2社ございます。

まず、1、内容、(2)内容の分かりやすさへの配慮です。A社は、教科書1年生、45ページ、B社は、1年生、29ページ、3年生、24ページ、付箋1を御覧ください。B社は、3年生も付箋1がございまして大丈夫でしょうか。B社は1年生と3年生に付箋がございまして。

A社は、全学年共通し、音の高さを風船のイラストで表し、指でなぞることができるように工夫されており、B社は、1年生は音階を階段のイラストで表し、2年生以上は、音の高さや動きが捉えやすいようになっています。A社、B社、表し方の違いはありますが、各学年の発達段階を追いながら工夫されています。これらは、資質能力の3本柱、知識及び技能の習得に当たります。

次に、一覧表、(3)小学校と中学校の学習内容の接続や系統性、関連性への配慮、2点目の丸を御覧ください。我が国の伝統音楽に関してです。B社は、2年生で虫の声を学習する際、長唄の「むしの声」が用意され、発展学習へとつなげています。本区では、5年生及び7年生または8年生において、和楽器、琴の体験を全校で実施しているところですが、A社、B社ともに4年生で扱うことになっており、事前指導から活用できるようになっています。

4年生、付箋2を御覧ください。本区において、5年生の実技指導で扱っている琴の「さくらさくら」の楽譜が掲載され、A社では6ページ、B社では2ページにわたり扱われています。また、A社は5年生の教科書に、B社は6年生の教科書に、再度、琴を扱う学習があり、これらは3本柱の学びに向かう力、人間性等の涵養に関するところで、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むことにつながると考えられます。

次に、2、構成と分量についてです。一覧表、(1)内容の配列の仕方、単元・教材等の系統性や発展への配慮についてです。1年生、付箋③を御覧ください。A社は、QRコードが全学年の目次に示され、さらに、教科ごと、内容項目ともにQRコードが示されており、学習に広がりを持たせる資料等がウェブ上で用意されています。B社は、QRコード及びURLが全学年の目次示されるとともに、資料の準備がされている題材には学びリンクの表示が内容項目とともに示され、学習に広がりを持たせる資料等がウェブ上で用意されています。

次に、表記と表現についてです。(1)表現に対する配慮では、A社はキャラクターで学習をナビゲートし、B社はマークで学習をナビゲートしています。

(2)教材の特質に即した表現等への配慮では、共通教材の扱いについて、両者の違いを示しました。3年生、付箋4を御覧ください。A社は、各学年の目次の左上部に共通教材として明記しています。「こころのうた」とし、古くから歌い継がれ、これからも歌い継

いでいきたい歌と表記し、情景を表現する写真や絵を見開きで示しています。B社は、目次に、共通の「㊤」のマークが示され、「にっぽんのうた、みんなのうた」とし、折り込みページで大きな写真が用いられています。

続いて、学習活動についてです。一覧表、(1)主体的・対話的で深い学びの実現に対する配慮についてです。5年生、付箋5を御覧ください。A社は、学習活動を、思考判断、知識、技能の資質能力に対応するマークで示し、学びが見える工夫があり、何を学ぶか、何ができるようになるかを明確にしています。B社は、歌唱の学習で、対話しながらみんな表現を深めていく学び合う音楽のコーナーを設定しています。また、QRコードで開く学びリンクでは、「見る・書く・知る」のマークで学習する、学習を促す題材もあります。これらは、3本柱(2)思考力、判断力、表現力等の育成につながると考えられます。

次に、5、造本についてです。造本については、特段大きな差異はございませんでした。

次に、6、地域性、(1)品川区や東京都の地域に対する配慮では、A社、3年生、P61、6の付箋、B社、4年生、45ページ、6の付箋を御覧ください。A社は、「ちいきにつたわる音楽でつながろう」で神田ばやしを取り上げられ、地域に伝わる祭り囃子を調べように発展させています。B社は、4年生では葛西ばやしを取り上げられています。2年生で、お祭りの音楽として八丈太鼓も紹介されています。

最後に、7、総合所見です。特に3点挙げます。1点目、A社は、各題材の初めに学習活動を思考判断、知識、技能の資質能力に対応するマークで示し、何を学ぶか、何ができるようになるかが明記されていました。B社は、各題材ごとに学び方を知る学びナビとして、何を学ぶか、何ができるようになるかを明記していました。

2つ目、A社は、QRコードが全てのページの右上に統一して表示されており、児童にとって活用しやすい配慮がなされています。B社は、QRコードからタブレット端末の使い方や感染症対策と、学校の生活で気をつけることが示され、実態に応じて活用できるようになっています。

3つ目、A社は、QRコードの中で音楽づくりのページがあり、ウェブ上で児童がカードを操作でき、一人一人のタブレットが有効的に活用できます。B社は、QRコードから開く学びリンクで、オーケストラで使われる主な楽器の音色を聞いたり、演奏方法を見たりすることができます。また、演奏に合わせて総譜に色がつき、どの楽器がどの旋律を演奏しているか、児童が視覚的に捉えられるようになっています。A社、B社ともに、3本柱の知識、技能の習得、思考力、判断力、表現力等の育成、学びに向かう力、人間性等の涵養に関する目標の観点からもよく考えられていました。

以上で説明を終わります。

【教育長】 説明が終わりました。

それでは、質疑、御意見をお願いいたします。

富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 拝見してみますと、A社とB社で取り扱っている楽曲の差異があるんじゃないかなというふうに思ったんですが、それについては、何か検討委員会のほうでは、これがあつたからこっちがいいよみたいなこととかはあるんでしょうか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 ありがとうございます。曲目については、共通教材については、こちら

の学習指導要領等で明確に示されていますが、それぞれの会社によって特色が出ていたところかと思えます。特色でお話をさせていただきますと、一覧表、1、内容、(3)、一番下の行を御覧ください。A社については、発達段階に見合った外国曲を用いた歌が掲載されて国際理解教育につながるというようになっています。ページ数は、記載されているとおりです。一方、発達段階に見合った外国語を用いた音楽として掲載しているページとしてB社も掲載がありますが、少し量に違いがあるかと思えます。

以上です。

【教育長】 よろしいですか。

富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 内容にもあるかなと思うんですけど、A社では、打楽器でリズムアンサンブルがあったり、B社はなかったみたいなことがあるんですけど、そういったリズムアンサンブルというのは、学習指導要領の中には必須項目としては入っていないということによろしいのでしょうか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 ありがとうございます。学習指導要領の中には、音楽を組み合わせたりして表現する技能として示されていますので、打楽器に限らず、音楽を組み合わせる授業はA社もB社も取り入れられているところです。

以上です。

【富尾教育長職務代理者】 ありがとうございます。

【教育長】 海沼委員、いかがでしょうか。

【海沼委員】 おうちに持って帰って自宅学習をするには、やはりQRコードとかを見たほうがやりやすいのかなと思うんですけども、そうしますと、これを持って、自宅学習するにはどちらのほうが使いやすいのかなと思っていたところなんですけど。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 ありがとうございます。自宅学習ですが、持ち帰ることを想定したときに、やはりA社は右上に全てQRコードがまとめて記載があることから、児童が持ち帰ったときにすぐに探しやすいという利点もあるかと思えます。

以上です。

【教育長】 よろしいですか。

塚田委員はいかがでしょうか。

【塚田委員】 そうですね、QRコードが全部載っているって大事な点ですね。子供が、これ、どんな感じの音楽を聴きたいかというのがあるんですけどすぐ分かりますよね。えーとって探さなくちゃならないとちょっと大変なんで、その点でもA社のほうがすぐれているのではないかなというふうに思います。

【教育長】 私から質問なんですけど、先ほど最初に御説明があった1年生の①の付箋のところの違いで説明いただいたんですが、多分、ここで最初に音階というのを子どもたちが触れるのかなって思ったんですね。B社のほうが、全音上がるのと半音上がるのと、ちゃんと違いを表現しているんですけど、A社、それがいいんですけど、そこは1年生のときにはまだそれほど重要じゃなくて、その後に出てくる单元なので、あくまでも分かりやすさというところを追求して、A社はこういうことになっているという理解でいいんですし

ようか。個人的には、ちゃんと半音と全音と分かれているのがいいなと思ったところなんですけど、どうなんでしょうか。

指導主事。

【指導主事】 やはり1年生の発達段階からすると、そのB社の図というのは大変分かりやすいかなと思います。ただし、1年生の段階で半音上がる等のイメージがどこまでつくかというのは発達段階に応じたところかなと思います。また、これが、2年生以降の学年にもこういう図があればよいのですが、そこについては2年生以降の表記はないかなというふうに思います。違う表記で載ってはいるんですけども、その段階の図は1年生しか載っていないということになります。

以上です。

【教育長】 ありがとうございます。この単元で教える内容としては、そこはあまり重視しなくていい、1年生の段階では重視しなくていいという判断でよろしいでしょうか。

指導主事。

【指導主事】 ありがとうございます。1年生でその半音というところをどこまで教えるかなんですが、それぞれの学校で、先生の、専科がつく学年とそうではない学年が低学年には出てきますので、そこについては、そこに触れられる教員とそうでない教員がいるかなというふうには思います。

【教育長】 難しいですね。ありがとうございます。

そうすると、書いてあったほうが分かりやすいのかなと思うし、それほどこだわらなくてもいいなら、全体の中で、6年間のうちにそこをマスターしていくという考え方でいい、そういうことでよろしいですか。

指導主事。

【指導主事】 よろしいかと思います。

【教育長】 ありがとうございます。

ほかにはございますか。どなたか。

では、質疑や意見が出終わりましたので、最終的にどの教科書を推すか、御発言をいただきたいと思います。

富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 私はAがいいかなというふうに思いました。楽曲の差といいますか、先ほども質問させていただきましたけれども、楽器を使わなくても、リズムでアンサンブルができたりとかというような工夫なんか面白いなと思っていて、Aが良いと思いました。

【教育長】 塚田委員。

【塚田委員】 さっきも申し上げたように、QRコードが全ページについているということで、これが使いやすいんじゃないかなと思いました。Bも捨て難いところありますけど、やっぱりAのほうがちょっと使いやすいかなという感じがしました。

【教育長】 海沼委員。

【海沼委員】 私も同じなんですけれども、やはりQRコードのことで、あと、学習しやすいのかなというのが、Aのほうがいいのかなと思いました。

【教育長】 ありがとうございます。

そうすると、A社を推す意見が多いので、A社に仮決定することといたしますがよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【教育長】 それでは、音楽はA社に仮決定をいたします。

それでは、続いて図工について説明をお願いします。

統括指導主事。

【統括指導主事】 初めに、本区における図画工作科の目標について御説明いたします。目標は、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質、能力を育成することです。造形的な見方、考え方とは、感性や想像力を働かせ、対象や事象を形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくり出すこととさせていただきます。

それでは、図画工作科の教科書につきまして、各社の特徴を御説明いたします。資料1-3を御覧ください。図画工作科は、A社、B社の2社でございます。

資料、1、内容、(2)内容の分かりやすさへの配慮についてです。教科書は、付箋①のページを御覧ください。学習のめあてについてです。A社は、左上、題材名の右にございます。知識及び技能に関するねらい、思考力、判断力、表現力等に関するねらい、学びに向かう力、人間性等に関するねらいの3観点で示しております。さらに、各題材で重点的に育成を図りたい資質、能力を設定し、赤字及び下線にて強調して明示をしております。

一方、B社でございますが、左上、題材名の下にございます。3観点を細分化し、知識及び技能については、知識に関するねらい、技能に関するねらい、そして、思考力、判断力、表現力等につきましては、発想や構想に関するねらい、鑑賞に関するねらい、そして、学びに向かう力、人間性等に関するねらいの5項目で明示をしております。

続きまして、資料は、2、構成と分量、(3)各領域の分量に対する配慮についてです。教科書は、付箋②のページを御覧ください。目次の部分になります。鑑賞の扱いについてです。A社は、鑑賞する活動を紫色のマークで示しています。鑑賞の題材をほかとは分けて設定をしております。B社は、鑑賞する活動をオレンジ色の丸印で示しております。全ての題材において、鑑賞する活動を設定しています。

続きまして、資料は、2、構成と分量、(4)教科の特質に即した教材の構成と基礎・基本的事項への配慮についてです。形や色などの造形要素、表現技法や材料、用具の知識についてです。教科書は、付箋③のページを御覧ください。A社につきましては、巻末に「学びの資料」として系統的にまとめられております。B社につきましては、まず、55ページのほうの③の付箋を御覧ください。巻末に「材料と用具のひきだし」として系統的にまとめられております。さらに、35ページにお戻りいただきまして、付箋③になります。

「図工のみかた」が掲載されております。A社、B社とも、タブレット端末に対応した2次元コードから用具の使い方などを動画で視聴できるようになっております。

続きまして、資料にお戻りいただきまして、3、表記と表現につきましては、特段の大きな差異はございませんでした。

資料は、裏面、4、学習活動、(1)主体的・対話的で深い学びの実現に対する配慮についてです。教科書は、付箋④のページを御覧ください。A社は、めあてに基づく意図的な児童の様子等の写真を用いています。真剣に取り組む児童の写真や楽しそうな笑顔あふれ

る児童の写真、児童作品の写真などを大きく掲載したり、吹き出しや作品に児童の考えや発想、構想のプロセスを読み取る参考となるコメントを掲載したりしています。

続いて、B社につきまして、めあてに基づく実際の授業における児童の様子等の写真を用いています。実施の授業の中での全身で材料を味わう児童の写真や真剣に試行錯誤する児童の写真を大きく掲載したり、児童の考えや発想、構想のプロセスを読み取る参考となる児童の発言や作品のコメントを掲載したりしています。

資料にお戻りいただきまして、5、造本、及び6、地域性につきましては、特段の大きな差異はございませんでした。

最後に、資料、7、総合所見についてです。A社につきましては、準備、導入から展開、振り返りまで、必要な情報をページの上下にまとめています。学習のめあての3観点の中から重点を設定し強調したり、関連する教科等における具体的な活動を想起させる部分を示したりして具体的です。また、真剣に取り組む児童の写真や楽しそうな笑顔あふれる児童の写真、資質、能力が発揮されている児童作品の写真などを大きく掲載したり、吹き出しや作品に児童の考えや発想、構想のプロセスを読み取る参考となるコメントを掲載したりしています。

B社は、準備、導入から展開、振り返りまで、必要な情報をページの上下にまとめております。学習のめあての3観点を5項目に細分化して示したり、表現と鑑賞の両方のめあてを示し、往還しながら活動することを大切にしたりしています。また、実際の授業の中での全身で材料を味わう児童の写真や真剣に試行錯誤する児童の写真を大きく掲載したり、児童の考えや発想、構想のプロセスを読み取る参考となる児童の発言や作品のコメントを掲載したりしております。

以上で説明を終わります。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

【教育長】 説明が終わりました。各委員から質疑、御意見お願いいたします。

富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 B社のほうに図工体操というのが出ていたのが面白いなと思ったんですけど、そういったちょっと違った工夫みたいなこと、QRコードで示してあって、これを、QRコードを見ると体操が入っているというのがちょっと面白いなと思いました。図工しながら体操するみたいなのが面白いなと思ったんですけど、そんなようなちょっと違う特徴の違いについて、検討委員会のほうでお話が出ましたでしょうか。

【教育長】 統括指導主事。

【統括指導主事】 検討委員会で話題に出た内容といたしまして、特徴の大きな違いの中で2次元コードの内容がございます。まず、A社につきましては、参考作品例であったり、作品カード、鑑賞カード、振り返りカードなど、ワークシートのようなデータも入っております。一方、B社につきましては、参考作品例、こちら同様です。そして、先ほど委員からお話がありました図工体操が掲載されております。違いは、大きくはこちらになります。

検討委員会の中で、A、B比較しますと、Bのほうが多量に参考作品例が多く掲載されているという意見もございました。

以上です。

【教育長】 ほかにはございますか。

塚田委員。

【塚田委員】 Bのほうですが、冒頭、糸のこぎりを使うと自由に板を切ることができるのか、必ず書いてあるんですね、その単元の。それが分かりやすいんじゃないかなと思いました。

それと、児童の写真なんですけど、Bは、全部、実際の児童、マスクしているんですね。Aはモデルさんなんですかね。要するに、マスクしてないんですよ。どっちがいいのかなというのはありますけど、コロナだからマスクしているのが自然だって、もうコロナ終わっちゃったよというふうに、評価の違いなんでしょうけど、そんな点のちょっと違いがあるんで、私はB社のほうがいいかなとちょっと思いました。

【教育長】 海沼委員、何か御質問。

【海沼委員】 そうですね、質問というか、目次を見ますと、やはりちょっと目次が見やすいほうがいいのかなって思ったんですね。AとBと目次を比べてみますと、やっぱりB社のほうが、鑑賞とか、実際に表す鑑賞とか工作に表す活動とか、見たときにパッと分かるので、見やすいなと私は思ったところなんですけど。

あとは、内容的には、どちらも変わらないのかなと思うのと、やはり先ほど塚田委員がおっしゃっていた写真が、やはり実際の子供たちの学習内容が載っているのがあるのかなとか、ちょっと見て思いました。

【教育長】 ありがとうございます。

私からも伺いたいんですけど、鑑賞という視点で、ちょっと見つけられなかったのですが、A社は鑑賞してみようというところがあるなという感じなんですけど、絵画が実際に載っていて、どういう視点で見たらどうか、ここまで書く必要があるのか、ないのか、ちょっと思いますが、B社にそういうところがあるのかなと思って、すみません、ちょっと見つけきれなかったの。

統括指導主事。

【統括指導主事】 教育長。

【教育長】 私が見ていたのは、A社の5、6年生の上の46ページでした。

統括指導主事。

【統括指導主事】 例えば5、6年生の上で言いますと、B社につきましては2ページを御覧ください。目次になります。目次の中で、オレンジ色のマークでマルカンというふうに書いている単元がございます。例えば、これで見ますと、30ページになります。自ら発見、この部分が鑑賞の題材として設定されている、独自に設定されている題材となっております。

【教育長】 そうすると、何か巨匠というか、すばらしい絵を見て鑑賞するというスタイルではなくて、自分たちが創り出したものを見ながら鑑賞という視点で学習していくという、そういう進め方がB社だということによろしいですか。

統括指導主事。

【統括指導主事】 特段、取り出されている題材につきましては、B社につきましては、先ほど御案内したような内容となっております。それに加えまして、教科書美術館などの特設ページが掲載されております。こちら、このようなページは、A社、B社にも両方ございます。こちらを活用することが、A社、B社とも活用することができます。

以上です。

【教育長】 分かりました。ありがとうございます。

そのほか、質疑、御意見ございますか。

では、質疑や意見が出終わりましたので、最終的にどの教科書を推すか、御発言をいただきたいと思います。

富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 私はBがいいと思いました。先ほど御説明の中にもありました、用具がまとまって示されている「材料と用具のひきだし」みたいなものがまとまっているのがいいなと思ったのと、あと、5、6年生の下の方に、48ページ、平和を願ってゲルニカの絵が描いてあって、そういった題材も提供していただけたらいいのかなというふうに思います。

【教育長】 塚田委員。

【塚田委員】 私、先ほども言いましたように、各単元の冒頭に学習のめあてみたいなのが分かりやすく記述されている点と、児童がマスクをして、実際の児童がいいのか、モデルさんみたいに使ったのがいいのか、それは意見が分かれるところだと思いますが、私はBのほうがいいんじゃないかなと思いました。

以上です。

【教育長】 海沼委員、お願いします。

【海沼委員】 お二人の意見と同じなんですけれども、目次の見やすさと、それから、内容的にやはり写真がよかったのかなと思うところと、あと、内容とといいますか、あと、造本とかそういう部分に関しては両方とも変わらないなって、両方ともいいなどは思っただけで見えておりました。ですから、どちらかといえばBのほうがいいのかなという感じです。

【教育長】 ありがとうございます。

私が一番気になったのは、A社が教科書の表紙に、その学年のねらいなのかな、できたらいいなとか、力を合わせるとか書いてあるんで、これはメッセージとして訴えられるところはいいかないかなと思いました。

ただ、内容的には、おっしゃるとおりBのほうが整理ができていて、あまりポイント、思考のポイントのところは赤字に書いてあったりすると子供がそっちに引張られちゃうかなと思うところがあったので、Bのほうがよろしいかと思いました。

ということで、B社を推す意見が多いので、B社に仮決定をすることといたしますが御異議ございますか。

(「異議なし」の声あり)

【教育長】 それでは、図工はB社に仮決定をいたします。

では、続いて家庭について説明をお願いします。

指導主事。

【指導主事】 家庭科の教科書について説明をいたします。資料1－4を御覧ください。

小学校における家庭科は、5年生、6年生の2年間で学習を積み重ねていく教科です。家庭科の学習を進めるに当たって、品川区の児童の実態から、課題として、知識、技能の習得状況に差があること、各家庭の環境に差があることなどが挙げられます。そこで、品川区立学校教育要領においては、1、生活と技術についての基礎的な理解、理論を身につ

けるようにすること、2、課題を解決する力を養うこと、3、実践的な態度を養うこと、この3つを1、協力・協働、2、健康・快適・安全、3、生活文化の継承・創造、4、持続可能な社会の構築という4つの生活の営みに関わる見方、考え方を働かせて育成することを目指しています。これは、国の学習指導要領においても重要とされている内容です。

それでは、これらを踏まえた上で資料について説明をいたします。まず、資料1、内容(1)の児童・生徒の発達の段階への配慮についてです。教科書は、赤い付箋のところの折り込みページを開いて目次を御覧ください。A社では、5年生、6年生という記述があり、B社にはないという違いがあります。また、B社はA社に比べ、衣食住などの領域ごとに題材が分かれているという特徴があります。

次に、資料、2、構成と分量についてです。引き続き目次を見ながら説明いたします。資料の(1)内容の配列の仕方、単元・教材等の系統性や発展への配慮について。こちらでは、A社では、2年間で15の題材を設定し、5年生、6年生で学習する順を定めています。このことによって、ストーリー性を持たせた系統的な学習ができるようになっていきます。

一方、B社では、2年間で20の題材を設定し、2年間で全領域を網羅するように題材が並んでいます。内容解説資料に載っている指導計画例では、5年生で目次の上半分にある「生活を見つめ、できることを増やしていこう」の部分の題材を指導し、6年生で下半分、目次の下半分にある「工夫して生活に生かそう」の部分の題材を指導する計画になっていますが、必ずそのようにしなければならないわけではありません。このことで、各学校や児童の実態に合わせられるよう、題材の組替えがしやすくなるという配慮があります。

次に、資料の(2)全体の構成とその見通しについての配慮です。A社の6ページ、オレンジの付箋①のところをお開きください。ここに成長の記録があり、自己評価をしながら学習の振り返りができるようになっています。また、オレンジの付箋②のところをお開きください。この左側のページ、各題材の初めに学習の流れが示されています。さらに、そこの右ページにステップ1とありますが、このようにステップごとのページ初めに「めあて」、ステップのページ最後の下の部分に「振り返ろう」が記載されています。

続いて、B社を御覧ください。B社の8ページ、オレンジの付箋のところをお開きください。蛍光オレンジの付箋です。左側のページ、各題材の初めに「学習のめあて」が示されています。その横にチェック欄が設けられ、振り返りができるようになっています。

資料に戻りまして、次に、3表記と表現ですが、こちらについては、A社、B社ともに大きな差異はございません。どちらもQRコードから動画へ移行できる案内があり、その内容もそれぞれ工夫されていました。

続いて、資料4学習活動の(1)主体的・対話的で深い学びの実現に対する配慮についてです。教科書は、青い付箋①のところをお開きください。A社では、題材が始まるページの写真やイラストの中にキャラクターによる問いかけがあり、主体的な学びを引き出す工夫がなされていました。一方、B社は、題材が始まるページの下の部分に子供たちへの問いかけと自分のマイめあてを記入する欄があり、主体的な学びを引き出す工夫となっていました。

続いて、資料、(2)の課題や問題を見つけ、その解決に向けた学習に対する配慮につい

てです。A社は、4ページ、青い付箋②の折り込みページを開いてください。付箋は上についています。学習の進め方と記載されてあるところです。B社も青い付箋②のところをお開きください。B社のほうは横についています。

A社は、1、見つめよう、2、計画しよう・実践しよう、3、生活に生かそう、新しい課題を見つけようという3つのステップ。B社では、1、気づく・見つける、2、分かる・できる、3、生かす・深めるという3つのステップによって、問題解決的な学習が展開できるような構成になっています。

続いて、資料、5、造本についてです。(1)配色や文字の大きさ等、全ての子供たちが見やすい配慮については、A社、B社ともにユニバーサルデザインフォントを使っています。また、全ての児童の色覚特性にも対応する配慮がありました。

続いて、資料、6、地域性についてです。両社とも、品川区に関する扱いはありませんでした。ただ、A社のほうには、巻末の地域の料理というコーナーで、江戸甘味噌を取り上げており、食に関する東京の伝統について考える機会がありました。

最後に、資料7の総合所見です。A社は、衣食住などの領域における2年間の学習の積み重ねが系統的に組み立てられているので、年間指導計画が立てやすく、教員の指導経験の差を埋めやすいつくりになっていると思います。例えばですが、緑の付箋1のところをお開きください。A社の92ページです。ここに、「夏をすずしくさわやかに」という題材がありますが、A社では、この一つの題材で衣と住の2つの領域を複合的に扱っています。そして、これは、児童の思考の働きに沿った無理のない学習の流れになっています。

まず、ステップ1の夏の生活を見つめようで、夏という季節の過ごし方を想起します。そして、ページをめくっていただきまして、ステップ2の四角1、夏の住まい方を見直そうで、エアコンを使用するなどの快適な住まい方について考えた後、またちょっとページをめくっていただきまして、四角2で、エアコンを使用せずに快適に過ごすための衣服の着方について考えを広げ、さらに、右側のページに移っていただきまして、四角3で、衣服の手入れの仕方へと学習を発展させる流れとなっています。これは、1、2年生の生活科や各教科での探究的な学習における学習の流れからつながってきています。

また、A社ではそのほか、全体的にどの児童もしっかり学習を理解し、技能を定着させることができるような配慮があります。例えば、緑の付箋2のところ、17ページです、を御覧ください。参考に、B社の緑の付箋2のところも御覧ください。B社のほうは11ページです。A社のほうは、お茶を入れる学習が2ページにわたってスモールステップで展開されています。このように、段階的な学習によってできる、できたという自信を持ち、家庭科への興味関心を絶やさずに、次に続く本格的な調理実習をスムーズにする配慮がなされています。

一方で、B社のほうは、衣食住などの領域を2年間で到達するよう単元が組み立てられています。このことにより、各学校や児童の実態に応じた年間指導計画が組めるようになっており、さらに一つの領域を深く見詰められるようになっていきます。例えば、目次を御覧ください。先ほどA社で取り上げた「夏をすずしくさわやかに」に該当する学習内容が、B社では、5ページの下の方、4の「衣服の手入れで快適に」、それから、隣の5、「すずしい住まい方で快適に」という2つの題材に分けられています。このように、衣と住などの領域を題材ごとに分けた構成は中学校での構成と同じであり、中学校の学習へのスムーズ

な接続につながります。また、言葉に対して、図版、写真、イラストが多く、子供たちに対する視覚的な効果の工夫があります。そのほか、キャリアインタビューが多く差し込まれており、家庭科の学習と実社会のつながりを意識できる意図が見られます。

以上で説明を終わります。御検討のほどよろしくお願いいたします。

【教育長】 ありがとうございます。

説明が終わりました。それでは皆様から質疑や御意見をいただきたいと思います。

富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 A社の教科書が、少しザラザラしている感じがあるんですけども、それについてはどうでしょうか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 やはり気のせいではなかったという意見が先生方から出そうですが、調査研究会、それから検討会でも、造本のところでは、気のせいかな、主観かな、ザラザラしている気がする、それから、紙の色が若干、A社とB社と比べると違うような気がする、という意見がありました。ただし、本当にそうなのかどうかというところが分からなくて資料のほうには載せられなかったんですが、あと、出来たてなのでもしかするとザラザラしているのかなというような意見も出まして、ただ、A社のほうは全くそういうことがないんで、もしかしたらページをめくりやすくするためのこれは工夫なのではないか。意図していないとしても、ページがめくりやすくなっているという、そういう工夫というか、効果はあるのではないかという意見がありました。ただしこれは、こちらの会社のほうからもはっきりと根拠があったわけではないので、主観と言えますがといったただし書つきでの調査結果になります。

以上です。

【富尾教育長職務代理者】 私、家でペラペラめくっていましたが、どうも広がっちゃう感じがB社にはあって、ちょっと厚みが出てきちゃう。そんなに何度も何度も使っているわけでもないのに、ちょっとその辺の造本、どうなのかなというところは気になりました。

【教育長】 塚田委員、いかがですか。

【塚田委員】 なかなか難しいですけど、家庭科については、学校の先生もかなり詳しい方と詳しくない方がいらっしゃるんじゃないかなと思って。家庭科ならお任せねっていう人もいると、家庭科はどうも苦手でという人、そういう先生に教わる、苦手な先生に教わる生徒としては、なかなかつらいものがあるんですけど、そういう点では、中学に連動しているとか、そういうことはあまり考えないで、先生と一緒にあって、生徒さんが家庭科をうまくやっていたらなという感じがちょっとするんですね。そういう意味では、どっちがいいんですかね。Aのほうがいいんですかね。という感じでした。

【教育長】 ありがとうございます。

何か指導主事、ありますか。

指導主事。

【指導主事】 調査研究会、検討会のほうでも、教員の指導能力であるとか指導経験についての言及が非常に多く、議論の時間としても非常に長くありました。小学校の家庭科は、どのような立場の教員がまず教えているのかというところで少し御説明をさせていた

だきますと、まず、図工や音楽のように、家庭科に特化して指導を行う専科教員としては、区内としては4人いるんです。多くの学校では学級担任が教えたり、あるいは、隣同士で授業を交換して、2クラスであれば2クラス分を家庭科を持つ代わりに体育をお願いしますといった、教科担任、一部教科担任制を使っていたり、もしくは、時間講師の先生にお願いして家庭科をやっていたりということが、品川区の実態としては多いんではないかと思います。あと、義務教育学校もありますので、そういうところでは、中学校籍の教員が5、6年で指導している場合もあります。

教員には、小学校であっても、それぞれ自分の専門とする教科というのを持っていて、区で主催をしている教育会という研究会にも、それぞれどこかには所属をして研究を進めることになってはいますが、それで調べましたら、区内で家庭科部会に入って、日々、研究を進めている教員というのは、やはり先ほどの4人のみです。その点では、家庭科という教科で高い専門性を持っている教員というのは、品川区では非常に少ないと言わざるを得ない状態になっております。

ですので、指導経験が浅い先生が指導をするに当たって、どういう教科書が使いやすいかなという視点で調査研究のほうが、そういった視点に主眼を置いて進められていったという、そういった流れがありました。

以上です。

【教育長】 よろしいでしょうか。

海沼委員、何か。

【海沼委員】 今のお話を伺っていて、やはり家庭科の先生が少ないのにびっくりしたところなんですけれども、それだったら、お茶の入れ方にしても、事細かくこういうふうに入れるんですよって書いてあったほうが、どの先生も教えやすいのかなと思います。

【塚田委員】 先生も勉強になる。

【海沼委員】 勉強に、そうですね。

【教育長】 今話を聞いて、ジャガイモを日光に当てて保管していた、そんな話を、今、ふと思い出したんですが、その辺の底上げはしていただきたいとは思いますが、私もちょっと一言だけ。

Aのほうが、一番最初のページを開く、表紙を開くと、家庭科はあなたの生活をよりよく変えていく教科ですというメッセージがあって、それがすごく子供たちに響くかなと言ったところがありました。Bのほうは勉強していきましょうみたいな書き方ですので、どちらかというところ、こういう働きかけ、頭に一番最初に出てくるのが良いのかなと思いました。

ほかに何か質疑や意見、ございますでしょうか。大丈夫ですか。

では、出終わりましたので、最終的にどの教科書を推すか、御発言をいただきたいと思っております。

富尾職務代理者からお願いします。

【富尾教育長職務代理者】 私は、A社がいいかなと思いました。大変丁寧に書かれているかなというふうに思いましたし、先ほど説明の中でも、健康、快適、安全というところなんですけれども、実習のところ、毎回毎回、しつこいくらいに手を洗おう、換気をしてって書いてある。必ずそれが書いてあって、安全に調理をするということが基本かなと思いますので、A社がいいと思いました。

以上です。

【塚田委員】 私は、先ほど申し上げたように、いろんな先生がいらっしゃるの、低いところに合わせるというのちょっとあれなんですけど、あまり高度な教科書を使ってもあぶはち取らずになっちゃってしまってもいけないので、先生と一緒にこの教科書を使いながら生徒さんも家庭科を楽しくやっていただけたらと思いますので、Aをお薦めしたいと思います。

【教育長】 海沼委員。

【海沼委員】 私も同じく、目次を見たときにも見やすいなと思ったところと、先ほどのお茶の入れ方じゃないですけど、初めから事細かく書いてあるということで見やすいなと思うのと、先生方も指導しやすいのかなと思いましたので、Aを選ばせていただきます。

【教育長】 それでは、A社を推す意見が多いので、A社に仮決定することといたしますが、御異議はありませんか。

(「異議なし」の声あり)

【教育長】 それでは、家庭はA社に仮決定をいたします。

御審議ありがとうございました。

ここで10分間の休憩を挟みます。再開は3時45分でお願いします。

(休 憩)

【教育長】 それでは、再開いたします。

次に、日程第1、協議事項2、自閉症・情緒障害特別支援学級の新設について、説明をお願いします。

特別支援教育担当課長。

【特別支援教育担当課長】 私からは、自閉症・情緒障害特別支援学級の新設について説明をいたします。教育委員会資料2を御覧ください。

まず、現状ですが、品川区では、これまで浜川中学校、大崎中学校で自閉症・情緒障害特別支援学級を設置しております。小学校での設置はこれまでなく、一貫した教育を推進していく上でも小学校での開設を望む声が多いところです。令和6年度に、宮前小学校において、この小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級を新設してまいりますので、内容のほう御確認いただければと思います。

次に2、対象者についてです。こちらにつきましては、2点ございます。まず、知的発達の全般的な遅れがなく、自閉症またはそれに類する者で、他人との意思疎通及び対人関係の形成が困難である程度のもの、または、主として心理的な要因による選択性緘黙等があり、社会生活への適応が困難である程度のもの、このいずれかに該当する児童となっております。あわせて、品川区教育委員会の就学相談または転学相談において、自閉症・情緒障害特別支援学級での指導が必要であると意見を受けた児童、こちらが対象となります。

施設につきましては、宮前小学校で令和6年4月の開設をする予定でございます。

今後のスケジュールについては記載のとおりとなりますが、円滑に進めていければと思っております。

以上となります。どうぞよろしくお願いたします。

【教育長】 説明が終わりました。質疑はございますか。

富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 自閉症・情緒障害特別支援学級ができる、大変喜ばしいことなんじゃないかなというふうに思うんですけども、この該当者が8人ということになると思うんですが、これから就学相談が始まりますけれども、8人を厳選していくのか、8人を超えてしまうような場合のというのが考えられるんじゃないのかなというふうに思うんですけど、そういった場合にはどのような形で決めていくんでしょうか。

【教育長】 特別支援教育担当課長。

【特別支援教育担当課長】 まず、区内には各学校、特別支援教室というものがございます。この対象者につきましても、自閉症、情緒障害というものは重なってくるところでございます。この固定級に適となることの判断は、やはり集団での活動がどうなのかというところになってきますので、就学相談で直ちに自閉症・情緒障害の固定級が適となるというところはなかなか判断が難しいところでございますから、学校、通常学級での様子を見ながらという形になってくると思います。

ですので、これまでの大崎、浜川を開設した当初も、そのときも、先ほど富尾委員おっしゃったとおり、1学級規模から始まっておりますので、そういった転学含めて、規模についてはある程度精査されてくるものではないかと考えておるところです。

以上です。

【富尾教育長職務代理者】 分かりました。

【教育長】 よろしいですか。

塚田委員。

【塚田委員】 この要件を見ますと、自閉症またはそれに類するもの、他人との意思疎通及び対人関係の形成が困難である云々と、これは何か軽度、軽い症状の場合というふうに言っているんですか。それとも、違う意味なんですか。

【教育長】 特別支援教育担当課長。

【特別支援教育担当課長】 先ほど集団でのということをお願いしたんですけども、自閉症・情緒障害で、集団の中でのまず活動ができるような形でありましたら、各学校にある特別支援教室で、通常学級に在籍しながら、週何時間か指導するような形となってきます。やはり一つは、通常学級での、35から40人での学級での指導が難しいというようなどころのお子さんが、こういった固定級のほうに入ってくるという形になってまいります。

以上です。

【塚田委員】 結構です。

【教育長】 吉村委員。

【吉村委員】 先ほどの富尾委員のお話の続きなんですけど、これ、集団での活動がなかなか難しいといったときに固定の情緒ということなんですけど、年度途中で、いろいろ在籍校での様子を見ながら判断していくということになるんですけど、最初、1学級からということなんですけど、仮に年度途中で8人を超える9人とか10人になったときには2学級になるということなんですか。

【教育長】 特別支援教育担当課長。

【特別支援教育担当課長】 ここの今の教育委員会の資料にはそうした明記はないんで

すけれども、先進地区の視察をしているところで、やはり年度途中で人がドバッと増えて2学級になってしまうと、教室だとか人的だとかというところが課題がございますので、転学相談につきましては年度ごとの更新というような形で、今、事務局は考えているところがございます。ですので、転学相談は受けますけれども、入るのは年度が改まってというような方針となります。

以上です。

【教育長】 海沼委員、何かございますか。

【海沼委員】 宮前小学校というところだと、地域的にはいいのかなと思うんですけれど、前に宮前小学校、何かやっぱりありましたよね。何かこういう学級が……。

【教育長】 特別支援教育担当課長。

【特別支援教育担当課長】 宮前小学校、以前にも特別な支援を要する形の学級というものがございまして、今、学校には入って左側のほうにそうしたスペースも残っているところです。今現在は、特別支援教室などが使っているんですけれども、そうした場所を生かしながらここで開設するところです。

以上です。

【吉村委員】 一つだけ伺っていいですか。もし分かったら教えてください。

小学校の情緒の固定って、今、東京都ってどれぐらいできていますか。あまりなくて、現場にいるときに、そういう情緒の固定のニーズがあるんだけど、昔、清瀬とか、そういうところが、多分、最初の頃、できたんだと、私、記憶しているんですけど、今って数、増えているんですか。

【教育長】 特別支援教育担当課長。

【特別支援教育担当課長】 すみません、ちょっとこちらの手元にはないんですが、近隣であると、小学校であれば、目黒で1、世田谷で4。ただ、港、大田は設置がない状況ですけど、中学校であると、港が1、目黒が1、世田谷が2、大田がなしというような形です。確かに市のほうには設置しているところというのはありました。

【吉村委員】 ということは、まだあまりないということですよ。

【特別支援教育担当課長】 近隣で言うと、そんな現状ですね。

【吉村委員】 分かりました。ありがとうございます。

【教育長】 ほかにはよろしいでしょうか。

では、自閉症・情緒障害特別支援学級の新設について、本件は了承いたします。

次に、日程第2、陳情審査。「包括的性教育を中心にすえ「生命の安全教育」を実りあるものにするための陳情書」。本件は初めての審査でありますので、書記より朗読をお願いします。

お願いします。

【書記】 それでは、陳情書を読み上げます。

「包括的性教育を中心にすえ「生命の安全教育」を実りあるためのものにするための陳情書」。

文科省は、子どもたち・若者が性犯罪、性暴力の被害者・加害者・傍観者にもならないための対策として今年度から「生命の安全教育」をすべての公立学校で本格実施します。近年、SNSを通じた度を越した性的いじめ、性犯罪・性暴力、痴漢の増加など深刻な状

況が進行しているからです。

その内容は「自分と他者の『からだ』を大切にする」、「『性暴力』が間違った行為であることを理解する」、「『プライバシー』や『合意』について考える」「サポートや支援を求めることができる」などのように、生命の安全教育は「性暴力に関わる安全（確保）教育」などになっています。これは、昨今の性被害、性暴力の深刻化に対する対策として一歩前進のとりくみであります。

しかしながら、この教材には不十分さもあります。それは、中高生の本当に知りたい性の知識に正面から向き合わず、性虐待や性暴力とはどのようなことを指すのか具体的には述べられていないところです。さらに、「性的関係」や「性行動」が「よくないもの」「避けるべきもの」、ネガティブなものとして捉えられている問題点と限界があります。

今、子どもたち・若者は生きづらさを抱えています。品川区でもコロナ禍で不登校が一層増えています。【2021年270人（中学）2019年（195人、40%増）「品川区子ども・若者計画：令和5年」より】

そういう中で、大切なことは、「生命の安全教育」を「性暴力・性犯罪から自らを守る」ということだけに留めず、「性は人権」「からだの権利がある」「性は多様である」という「包括的性教育」を学ぶ出発点にすることです。これは学校における学びを豊かにし、生きづらさを抱える子どもたち・若者の生活を変えていくことでしょう。

今年2月5日、「教育カフェ」など区内の教育・福祉団体が中心となり、「すべての人に性の学びを～包括的性教育は未来を拓く～」をテーマに「性教育学習講演会」を開催し、教職員や保護者など約100名が参加しました。講師の水野哲夫氏は、「子ども・若者たちは不正確で暴力的で、しかも金儲け主義的な性情報にさらされている。その一方で学校での性の学びはとても貧弱だ。せつかく実施する『生命の安全教育』も性暴力予防、その心構えに留めず、包括的性教育の視点で人権と多様性を基盤とした包括的な性の学びを進めよう。」と訴えました。参加者からも「品川のすべての学校で『包括的性教育』を進めてほしい」という多くの感想が寄せられました。

品川区のすべての学校で、森沢区長の公約にも掲げられた「包括的性教育」を中心に据え、「生命の安全教育」を実りあるものにすることを要望し、下記の通り、陳情します。

1、品川区のすべての学校で「包括的性教育」を推進してください。

2、生命の安全教育を実施するにあたって、「包括的性教育」の視点を持ち、「(改訂版)国際セクシュアリティ教育ガイダンス」に基づいた教材開発・利用、現場への研修を充実させてください。

*「包括的性教育」については裏面、「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」を参考にしてください。「三本柱『多様性』『人権』『ジェンダー理解』と8つのコンセプト、①人間関係②価値観、人権、文化、セクシュアリティ③ジェンダーの理解④暴力と安全確保⑤健康と幸福のためのスキル⑥人間の体と発達⑦セクシュアリティと性的行動⑧性と生殖に関する健康」。

以上となります。

【教育長】 朗読が終わりました。それでは、本件について、事務局より説明をお願いします。

教育総合支援センター長。

【教育総合支援センター長】 包括的性教育を中心に据えた「生命の安全教育」について、御要望を2点いただいております。それぞれの要望についての考え方について説明をいたします。

まず、1点目は、品川区の全ての学校で包括的性教育を推進してくださいについてです。性に関する教育については、国の学習指導要領や品川区立学校教育要領に基づき、各校において指導計画を立てて実施しております。小学校体育の保健領域、中学校保健体育の保健分野を中心に、理科の学習や家庭科、市民科の学習の中で、初経や異性への関心の高まりや性衝動など、思春期の心と体の発育と発達、また、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題、エイズ及び性感染症とその予防、異性の尊重、性情報への適切な対処や行動の選択など、身体的側面のみならず、人権教育など、様々な観点から学習が行われております。包括的性教育そのものを否定するものではありませんが、公立学校としては、学習指導要領に準拠した指導を行うことが適切であると判断しています。

続いて、2点目、生命の安全教育を実施するに当たって、包括的性教育の視点を持ち、改訂版国際セクシュアリティ教育ガイダンスに基づいた教材開発、利用、現場への研修を充実させてくださいについてです。自分の体と心の成長を理解し、自他を大切にすることを気づかせることが大切だと考えております。全国では、今年度より生命の安全教育を実施し、国が作成した教材を使用して指導しております。本区においても、各校が教育課程に位置づけて指導に取り組んでおります。例えば小学校では、水着で隠れているところは自分だけの大切なところ、相手の大切なところを見たりさわったりしないということや、中学校では、自分と相手を守る距離感、性暴力や被害について、例示、対応など、また、特別支援学級では、小中学校向けの教材を活用し、実態に合わせて個別に指導することになっています。現状としては、国が推進する命の安全教育を丁寧に実施していくことが大切だと捉え、各校に確実な実施を促してまいります。

以上でございます。

【教育長】 説明が終わりました。

それでは、質疑はございますか。何かございませんでしょうか。

私から先にいいでしょうか。今、説明の中に、小学校体育の保健領域とか、中学校保健体育の保健分野を中心に様々な学習の中でいろんな観点からの学習が行われているという説明がありましたけども、もう少しお聞きしたいのは、性に関する指導の基本的な考え方と、包括的性教育というのはどのように捉えているのかということをお教えいただければ。

教育総合支援センター長。

【教育総合支援センター長】 区立学校における性に関する指導については、国の学習指導要領や品川区立学校教育要領に基づき、小学校体育の保健領域や中学校保健体育の保健分野を中心に、理科や市民科において実施しているほか、今年度からは、性犯罪や性暴力から身を守ることを目的とした、生命の安全教育を全校で実施しているところです。

包括的性教育についてですが、ユネスコが示す8つの視点、関係性、価値観、権利、文化、セクシュアリティ、ジェンダーの理解、暴力と安全確保、健康と幸福のためのスキル、人間の体と発達、セクシュアリティと性的行動、性と生殖に関する健康、これらについては、市民科や保健体育をはじめ、理科等の授業の中で指導を行っているかと捉えております。

人権に深く関わる場所ですので、人権教育の一つとも捉えているところでございます。
以上でございます。

【教育長】 そうすると、保健体育とか、保健の分野だけではなくて、人権教育としても指導しているというふうな捉え方でよろしいでしょうか。

教育総合支援センター長。

【教育総合支援センター長】 例えば小学校の体育で、保健領域の中で、4年生では、体の発育や発達について個人差があることですか、ここで初経や精通、異性への関心について、教科の中で学びます。また、理科の学習では、5年生で生命の誕生について学習することになっております。また、市民科では、例えば3年生で暴力防止プログラム、CAPというのを全校で実施しておりますけれども、そういったところでの学習や、9年生では、法や決まりの価値というところで、非行や犯罪行為の認識について学習することになっております。

こうした各教科や市民科の中での学習の中に、様々、人権教育の要素が含まれておりまして、これらは包括的性教育の考え方にも近いものであると考えております。

【教育長】 ありがとうございます。

ほかにございますか。

塚田委員。

【塚田委員】 この陳情なんですけど、この陳情は何を目指しているんですかね。生命の安全教育を目指しているんですか。それは区でやるものですよ。何かちょっと意味がよく分からないんですけど、簡単に説明をしてください。

【教育長】 読み取れるところでという説明をお願いします。

教育総合支援センター長。

【教育総合支援センター長】 陳情の内容についてというところでは、日本の性教育に課題があるというところから、生命の安全教育を推進していく上で、包括的性教育の視点を取り入れてというような意味だと捉えております。一般的に言われているような日本の性教育の課題についてですけれども、性情報の判断など、子供たちを取り巻く社会環境が大きく変化してきており、子供たちが性に関して適切に理解し、行動することができるようになることが課題と。

【塚田委員】 それは分かるんですよ。これに対して何をせよと言っているんですか。この陳情。

【教育長】 お願いします。

教育総合支援センター長。

【教育総合支援センター長】 といったところで、明確に包括的性教育を教育課程に位置づけてというような意味で捉えて、そういう陳情であるというふうに捉えておりますが、考え方としては先ほどお伝えしたとおりでございます。

【教育長】 記書き以降に書いてあるものが主に陳情の趣旨と捉えられますので、書いてあるとおり、品川区の全ての学校で包括的性教育を推進してくださいと、あとは、2番のほうに、もろもろ教材開発とか利用、現場への研修を充実させてくださいというこの2点がこの陳情で、区に要求していることというふうに捉えられます。

【教育長】 塚田委員。

【塚田委員】 非常によく分からない内容のものです。区でやってほしいとか、研修してほしいとか言われてもよく分かんないところです。御自分たちで推進したらいいんじゃないですか。研究会で講演会やって100名ぐらい集まったって書いてありましたよね。それをどんどん広がっていくのか、広がらないのか、分かりませんが、やっていけばいいんじゃないですかね。

【教育長】 御意見としてですね。
海沼委員。

【海沼委員】 学校で性教育を行うときに、留意点としてどのようなものがあるのかなと思うんですけども。

【教育長】 教育総合支援センター長。

【教育総合支援センター長】 性教育を行う際の留意点といたしましては、まず、性教育に関して使用する用語について、必ずしもその意味が共通認識されないままに使用されるという状況があります。特に新たな表記や外来語などについては、その意味を確かめる必要があります。なお、児童生徒の状況に応じ、表現方法を配慮して指導をいたします。児童生徒の身体的、精神的発達や性的成熟には個人差があり、性に関する情報についても、その質や量の入手に差異があるため、これらの個人差等に十分配慮する必要があるとされています。児童生徒が自らの課題を解決しようとする学習にあつては、発達の段階に即した適切な情報を提供していきます。また、性的指向や性自認、また、宗教等に配慮し、児童生徒や保護者の理解を得ながら支援を進めることが重要です。

性教育においては、教職員と児童生徒及び保護者との信頼関係は不可欠であり、その確立に努める必要があります。在籍する児童生徒の状況から校長が判断をし、学習指導要領に示されていない内容を指導する必要がある場合には、事前に学習指導案を保護者全員に説明し、保護者の理解、了解を得た児童生徒を対象に、個別指導、グループなどの同時指導も可としていますけれども、実施するなどが考えられます。

以上でございます。

【教育長】 よろしいでしょうか。
富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 国の学習指導要領や品川区の学習指導要領というのがあると思うんですけども、それが今後、どんなふうに変化していくのかがちょっと分からないので、この陳情書を受け入れていいのかどうかというのも難しいところなのか、どんなふうに行くのかも分からないというところもあると思うんですけども、どんなふうに行きそうなのか、より具体的な方向に行きそうなのかどうかというのは、現時点で分かっているところはあるんでしょうか。

【教育長】 教育総合支援センター長。

【教育総合支援センター長】 現時点で、学習指導要領の改訂はまだ数年先の話になりますので、新たな情報としては入ってきておりません。とにかく今年からは生命の安全教育を進めるということで国からも通知が来ていますので、区立学校においてもその充実に努めていく必要があると考えています。

【教育長】 吉村委員。

【吉村委員】 今おっしゃった生命の安全教育というのはとても重要なことだと思うん

ですけど、これ、実際、現場で先生たちが指導するときは、何かよりどころになるようなものってあるんですか。

【教育長】 教育総合支援センター長。

【教育総合支援センター長】 文部科学省が、児童生徒向けの教材を開発して公開しています。我々は、各学校にそれを国からの指導資料だということで通知をしているところなんですけれども、例えば動画資料であったり、スライド資料であったり、そういったものが教材として児童生徒向けにはございます。また、指導する教員向けの指導案というか、そういったものも用意がありますので、それに基づいて指導をしているところでございます。

【教育長】 よろしいでしょうか。

ほかにはよろしいですか。

それでは、本陳情の取扱いについて御意見を伺いたいと思います。継続にする、あるいは結論を出す、どちらかに発言をお願いします。また、結論を出すのであれば、採択、不採択等、その結論についても御発言ください。

富尾職務代理者からお願いします。

【富尾教育長職務代理者】 本日結論を出すということで、私は不採択でお願いします。

【教育長】 塚田委員。

【塚田委員】 本日結論を出して不採択という結論でよろしいかと思います。

【教育長】 海沼委員。

【海沼委員】 本日結論を出すということで、不採択ということでお願いします。

【教育長】 吉村委員。

【吉村委員】 私も不採択です。国の生命の安全教育ということをまずはきちっと推進していくことが優先すべきことだというふうに思います。

【教育長】 私も今回結論を出すということで、不採択で、今、説明がありましたように、区としては、国が今年から行っています生命の安全教育をきちんとやっていくというところでよろしいかと思います。

それでは、本陳情については結論を出すとの意見でまとまりましたので、そのような取扱いでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【教育長】 それでは、本陳情については、本日結論を出すことに決定しました。

先ほどそれぞれ御意見を伺いましたので、本件について採択を行います。「包括的性教育を中心にすえ「生命の安全教育」を実りあるものにするための陳情書」についてお諮りいたします。本件を不採択とすることに異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

【教育長】 それでは、異議なしと認め、不採択とすることに決定します。

次に、日程第3、報告事項1、新入学者の受入枠について、説明をお願いします。

学務課長。

【学務課長】 それでは、令和6年度の新入学者の受入枠について説明をさせていただきます。本日、配付いたしました資料4を御覧ください。

初めに、来年度に入学予定の児童・生徒に関わる学校選択を10月に実施いたします。

学校選択を実施するに当たり、毎年、学校案内パンフレットを作成し、その中で希望申請の基準となる各学校の受入可能学級数、児童数、いわゆる受入枠をお知らせしております。そのため、毎年、各学校の受入可能学級数を決定し、御報告をさせていただいております。

資料の1枚目でございます。受入枠、受入可能人数ですが、中段に表を載せております。小学校・義務教育学校（前期課程）につきましては、法で1学級35人で学級編制することが定められております。したがって、1年生は1学級35人を基準として、学校選択の締切り後、来年度の入学時までには転入等があることを考慮いたしまして、表のとおり受入可能人数を設定しております。下段の中学校・義務教育学校（後期課程）につきましては、学級編制は1学級40人と定められております。こちらも、受入枠といたしまして、学校選択の締切り後の転入等を考慮しまして、表のとおり受入可能人数を設定しております。

今、説明しました中で転入等を考慮ということでお話をさせていただいておりますが、小学校・義務教育学校（前期課程）につきましては、1学級の場合は、35人のところ5人分の転入等を見込んで30人、2学級以上につきましては、10人分の転入等を見込んでそれぞれの受入可能人数としております。中学校・義務教育学校（後期課程）につきましては、1学級の場合は5人分、2学級の場合は10人分、3学級以上は15人分の転入等を見込んでそれぞれの受入可能人数を設定しております。転入等の見込みにつきましては、過去の実績を考慮して設定をしております。

(2)でございますが、各学校の受入可能学級数、人数については、後ほど別表で説明をいたします。

(3)でございますが、こちらで設定しております受入枠は、通学区域外から希望申請する方に適用するもので、記載のとおり、通学区域内の方は受入枠を超えても全員受入れをいたします。

それでは、別表1を御覧ください。別表1、こちらは小学校・義務教育学校（前期課程）の受入枠でございます。表の左側が令和5年度、今年度入学実績、表の右側が令和6年度に設定している受入枠を記載してございます。令和6年度の設定につきましては、昨年度の実績等も参考にしております。こちら、受入枠の学級数ですが、ほとんどの学校が昨年度と同様の受入枠となっておりますが、番号で言いますと、1番の城南小学校、11番の鮫浜小学校、14番の浜川小学校、こちらについては、就学人口の増加に伴い、昨年度の受入枠より1学級増で設定をしております。なお、補足となりますが、鮫浜小学校につきましては、就学人口の今後の数を見ますと、来年度の入学者のみ就学人口が増加しているという状況でございます。それ以降については例年並みという人口推計が出てございます。

表の右側の一番下ですが、令和6年度の受入可能枠は、109学級3,445人で設定しております。昨年度より3学級105人の増となっております。

続きまして、別表2を御覧ください。こちら、中学校・義務教育学校（後期課程）の受入枠でございます。表の見方は小学校のほうと同じとなります。中学校・義務教育学校（後期課程）の令和6年度の受入枠でございますが、就学人口、あと、昨年度の実績等を見ますと、令和6年度につきましても令和5年度並みと判断してございます。そのため、受入枠、人数については、変更はございません。

表の右側の一番下でございます。令和6年度の入学可能枠は、昨年度と同様、59学級

2, 135人で設定をしております。

新入学者の受入枠の説明は以上となります。

【教育長】 説明が終わりました。

質疑はございますか。

富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 小学校・義務教育学校（前期課程）に関してですけれども、プラス3学級で、プラス105人ということですが、学級、クラスを新しくつくる、校舎としての問題は大丈夫なんでしょうか。

【教育長】 学務課長。

【学務課長】 来年度の学級数につきましては、昨年度に見込みをつくりまして、今年度必要などころには学級増の予算措置をしております。夏休み中に工事をするという形で、現在、設計等を進めているところでございます。

以上です。

【教育長】 ほかにございますか。

塚田委員。

【塚田委員】 私が教育委員になった頃、小学校に入学するクラス、5クラスというのはなかったですね。一番多くてやっぱり3クラスぐらい。今、5クラスになった1年生が何個かあるんですね。今後、どうなんですか、見通しとしては。

【教育長】 学務課長。

【学務課長】 今後の見込みですが、以前、学級編制等のときにもお話をしているんですが、まだ品川区のほうは就学人口が増えている状況でございまして、今の見込みで言いますと、小学校の全体の話で言いますと、令和19年度ぐらいまでは増加をします。それ以降がやや減っていくという状況でございまして、その点については、毎年、就学人口を注視しながら学級増の対応、あと、この後の報告事項でございまして、学事制度審議会のほうも設置いたしまして、そちらのほうで今後の件についても審議いただくということにしております。

以上でございます。

【教育長】 ほかにございますか。

それでは、新入学者の受入枠についてはよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

【教育長】 では、本件は了承いたします。

次に、日程第3、報告事項2、品川区学事制度審議会の設置について、説明をお願いします。

学務課長。

【学務課長】 それでは、品川区学事制度審議会の設置について御報告をいたします。資料は5になります。

1、設置目的でございます。前回、学事制度審議会は平成28年度に設置しまして、平成30年3月に答申をいただいております。それから約5年経過をいたしますが、この間、小学校における学級編制が35人に法改正されました。また、先ほど言いましたが、本区の就学人口のさらなる増加がございます。そういうことで、区立学校の受入体制の確保が

緊急の課題となっております。こうした状況を受けまして、品川区学事制度審議会を設置し、今後の制度や施策について調査検討するものでございます。

2、所掌事項でございます。区立学校におけるよりよい教育環境を確保するための学事制度について審議をしていただきます。

3、審議期間でございます。来月の7月に1回目の会議を開催いたしまして、その後、複数回の審議をいただき、11月頃に中間答申、その後、パブリックコメントを実施し、年度末までには答申をいただく予定でございます。

4、委員・事務局構成でございます。委員は、学識経験者2名のほか、区民代表、学校代表として、連合町会長や校区教育協働委員、PTAや校長会代表の方々により構成された11名を予定しております。また、事務局については記載のとおりでございます。

最後に、記載はございませんが、本審議会は自由闊達な意見交換をしていただくために非公開といたします。なお、非公開ではございますが、審議の状況については、適宜、教育委員会に御報告をいたしますし、要点筆記の形でホームページ等に公開をする予定でございます。

報告は以上となります。

【教育長】 報告が終わりました。

質疑はございますか。

塚田委員。

【塚田委員】 先ほどのお話ですと、令和19年まで小学校の入学者が増えるということなのですが、これはもう学区内においても入学できない状況になる可能性がありますね。

【教育長】 学務課長。

【学務課長】 物理的な問題がありますので、学級数と就学人口に応じて非常に厳しいというのは事実でございますが、ただ、義務教育ですので、受入れできないということではできませんので、受入れをするために方策等を審議いただくということでございます。

【塚田委員】 そのためには、学区、いじらないと駄目ですよ。去年かおとし、小山3丁目の学区をずらしましたよね。ああいう作業をやっていないと、なかなか難しいんじゃないですかね。

【教育長】 学務課長。

【学務課長】 当然、通学区域の変更については審議の対象になると考えております。

【教育長】 ほかに。

富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 結構大変なことが審議会で審議されるんだろうなというふうに思うんですが、今年度中に決まらないということもあるのかなという気もするんですけど、どうしても決めていかなくちゃいけないと思うんですけど、非常に期間が短い感じもあるので、その辺の見通しなどもどうなんでしょう。

【教育長】 学務課長。

【学務課長】 審議期間については、短いんじゃないかという御意見はごもっともかとは思いますが、先ほどの説明の中でもお話ししましたが、就学人口が増加しておりますので、その受入体制は急務でございます。ですので、早く御審議いただき、方策等、答申をいただきたいという部分でございます。

それと、前回、学事制度審議会を開催したときに、そのときには学校選択の大きな制度の在り方ですとか、もう検討されていますので、検討等を見守る必要はございますが、そこまではいかないのかなというのは予測しているところでございます。

それと、当然、短期間で審議が行えるよう、事務局のほうも、資料の事前準備、事前配付等で、少しでも早く答申いただけるような形で進めていきたいと考えてございます。

以上でございます。

【教育長】 塚田委員。

【塚田委員】 一番難関なのは町会長たちだと思いますよ。自分はここの学校の出身なのに何で孫が入れないんだ、そういう意見が必ずある。だから、資料よりも説得ですね。説得に早く動いたほうがいいですよ。

【教育長】 学務課長。

【学務課長】 ただ、町会長ですとか、地域の方へのお話等につきましては、当然、できる段階になりましたら、できるだけ早めにお話をしていきたいと思いますが、今、連合町会長、ちょっとお話をさせていただいたりしたときは、町会長自体も地域の課題等については非常に重要に感じているというのが話していても分かりますので、そういう部分では御協力いただけるものと感じております。

以上でございます。

【教育長】 丁寧に進めてまいります。

吉村委員。

【吉村委員】 先ほど日程的に話がありましたけど、令和6年3月が答申ということになるので、そうすると、答申をいただいて、今後、どうするかというのは、令和8年度の、令和6年3月だから、令和7年度の入学のところからそういう審議会で検討したことが反映されていく、そういうことですかね。

【教育長】 学務課長。

【学務課長】 答申後のスケジュールでございますが、先ほど言いましたように、受入体制をつくるところが急務ですので、一番早い場合で考えられるのは、今年度末に答申をいただいて、6年度早々に制度設計をし、学校選択が始まる前に周知等をいたしまして、令和7年度入学者から適用が一番最短となります。

以上です。

【教育長】 ほかにはございませんか。

では、品川区学事制度審議会の設置についてはよろしいですか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 では、本件は了承いたします。

次に、日程第3、報告事項4、令和5年度品川区立図書館の休館について、説明をお願いします。

品川図書館長。

【品川図書館長】 それでは、私から令和5年度品川区立図書館の休館について御説明申し上げます。資料7を御覧ください。

例年のことではありますが、区立図書館における書籍、資料の在庫確認のため、周知の日程で特別整理期間を設け休館します。休館中には、一部において施設の工事も併せて実

施いたします。また、複合施設点検においては、施設全体の電気設備の法定点検による停電、貯水槽点検による断水により休館いたします。

説明は以上です。

【教育長】 説明が終わりました。質疑はございますか。よろしいですか。

令和5年度品川区立図書館の休館についてはよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 では、本件は了承いたします。

次に、日程第3、協議事項5、子ども向け図書館夏のイベントの御案内。説明をお願いいたします。

品川図書館長。

【品川図書館長】 それでは、私から、子ども向け図書館夏のイベントについて御説明申し上げます。資料は8を御覧ください。

区立図書館では、子供が図書に親しむ機会を提供し、子供の読書活動を推進することを目的に、夏休みのイベントとして例年2つの事業を実施しております。まずは、1の図書館スタンプラリーです。お子様が御自身の図書カードで児童書を借りた際に、スタンプラリーのカードにスタンプを押印します。3日間、図書館に来館し、スタンプを3つ集めると、記念品としてかわいいA6サイズのブックマクン・しおりちゃんノートをプレゼントいたします。色は2種類あって選べます。2ページ後に表紙のサンプルがございます。

また、スタンプラリー終了後、感想などを記載した読書カードに御記入いただきまして、各図書館内に読書の木、読書の実などとしてその感想を展示いたします。各館の実施状況につきましては、3ページ後を御覧ください。詳細は記載のとおりです。

次に、2の科学あそび教室となります。小学生を対象に、科学遊びを通じて科学分野への興味を喚起し、会場内で関連図書を紹介し、図書館の利用促進を図ることを目的とした事業です。内容につきましては、次のページの一覧表に記載してございます。各図書館では、小学生が興味を持ち図書の活用につながるよう、それぞれ工夫を凝らした内容で実施しています。図書館では人気の事業の一つでございまして、応募倍率も高いものです。今回は、コロナも5類になったこともあり、施設の広さなど合わせて、昨年より定員を増やしている図書館もございます。引き続き、利用者の安全を確保しながら進めてまいります。

私から以上でございます。

【教育長】 説明が終わりました。質疑はございますか。

では、子ども向け図書館夏のイベントの御案内についてはよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 では、本件は了承いたします。

次に、日程第4、その他、令和5年8月行事予定について、説明をお願いいたします。

庶務課長。

【庶務課長】 それでは、私から、令和5年8月行事予定について、資料9に沿って御説明を申し上げます。8月につきましては、例年、議題、案件等の量の関係で、例年1回の定例会ということでやっているところでございます。今年度につきましても、資料に記載のとおり、22日の火曜日午後2時から、ここ、教育委員室で教育委員会定例会を開催を予定しているところでございます。

以上でございます。

【教育長】 質疑はございますか。

では、令和5年8月行事予定についてはよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 本件は了承いたします。

そのほかに何かありますでしょうか。ないですか。

それでは、先ほど決定しましたとおり、非公開の会議を開きますので、傍聴の方は御退出を願います。

— 了 —